

2025年4月23日

東京都知事
東京都教育委員会教育長
東京都議会議長

小池 百合子様
坂本 雅彦様
益子 ひろき様

都立高校在京外国人生徒等の入試に関する要望書

東京の日本語教育を考える会 代表 中山真理子

貴職におかれましては、日頃より、外国につながる子どもの教育条件改善のためご尽力くださり、関係者一同感謝申し上げます。

2025年度都立高校在京外国人生徒等対象入試においては、制度が大きく前進したこと、たいへん感謝しております。しかし、在京外国人生徒等対象入試枠では、受検者の増加が続き、再び大量の不合格者が出ました。さらなる改善が必要と考えております。以下要望致しますので、ご高配を賜りたくお願い申し上げます。

【要望の主旨】

日本語の力が不十分な生徒を高校に受け入れ、十分に学べるための体制整備することは、すでに当然のことになっています。日本語を母語としない子どもたちは、適切な日本語・教科学習支援があればしっかりと学力を身につけられます。彼らが希望に満ちた高校進学を果たし、自らの力を存分に発揮し、社会にも貢献できるよう、ご検討をよろしくお願い申し上げます。

【要望内容】

一、在京外国人生徒等対象の入試を実施する高校をさらに大幅に拡充してください。

2025年度の都立高校入試における在京外国人枠では、定員240名に対し、481名が応募し、不合格者は256人が不合格になりました。応募倍率は、2.0倍です。この間の応募者の激増状況を踏まえると少なくとも20校以上の在京枠校が必要です。

- (1) 都内のどこに住んでいても通学できるよう配置してください。
- (2) さまざまな特徴のある高校、入試難易度をもった高校にも設置してください。
受験生の志望動向からは、中堅全日制普通科、大学進学につながりやすい高校への設置が求められています。

二、情報取得が困難な生徒・保護者に対する情報提供の改善

- (1) 日本語を母語としない生徒の都立高校入試制度を中学校教員に周知徹底してください。
- (2) 都教委がブロックごとに会場を設けて実施している「都立学校等合同説明会」において、「外国につながる生徒」の相談ブースを充実してください。
- (3) 東京都教育委員会の入試に関するホームページは、多言語とやさしい日本語で、わかりやすく、アクセスしやすい構成に改善してください。

三、日本語を母語としない生徒の都立高校入試制度を改善してください。

- (1) 在京外国人生徒等対象入試の検査日程・内容の改善について
 - ①国際高校の在京外国人入試の日程をバカロレア入試・他の在京外国人入試の日程と同じにしてください。
 - ②検査は、推薦入試と同日を維持し、共通問題で、基礎学力を測る問題（英語・数学：一般入試と同範囲）と面接・作文とし、日本語で実施してください。
全国で、特別枠を設定する30地域のうち、面接作文で合格者を決める地域は7地域で、2～3教科の学力検査を実施する地域は21地域です。
 - ③検査問題は、初めからルビ付きの問題・解答用紙を使用してください。

(2) 一次・二次検査における特別措置について

- ① 来日 3 年以内に限定せず 6 年以内の生徒でも、特別措置（ルビ振り、時間延長、辞書持込み）の選択ができるようお願いいたします。「辞書持ち込みなしの時間延長だけ」の希望も認めて下さい。
- ② 申請用紙（様式 30）の申請理由欄はなくしてください。

(3) 一次・二次検査における教科数減について

5 教科入試の現状は、学力は高くとも滞日期間の短い生徒たちに一般入試での全日制進学道を断念させています。検査における教科数減は少なくとも 13 の自治体で実施されています。東京都でもぜひ早急に対応をお願いします。

全日制の一次検査では、検査を行う 5 教科のうち、英・数と任意の 1 教科による 3 教科、二次検査においては、3 教科のうち英・数の 2 教科で受検できるようにしてください。

(4) 中学校英語スピーキングテスト（E-SATJ）について

英語力が正しく測定できる検査方法に改善するために、問題文はルビ振りだけでなく、日本語と英語の表記にしてください。

四、インターネット出願の多言語支援と、書類出願・持参を並行してください。

外国につながる生徒は、日本語による手続きの理解が大変困難で、日本人の支援者なしには対応できません。

- (1) 各高校名にひらがなのルビ、ローマ字表記を加えてください。
- (2) 各高校のページから、やさしい日本語・多言語で手続きできるようにしてください。また、画面の外国語への機械翻訳の方法を示してください。
- (3) アルファベット氏名の入力を半角英字にしてください。全角英字入力は容易ではありません。
- (4) 紙の書類の作成・持参提出もできるようにしてください。
- (5) 都教委にネット出願支援コーナーを設けてください。

五、日本語を母語としない生徒の現状を把握し、高校の受け入れ体制を充実させてください。

- (1) 全都内中学校・都立高校、及び地域支援団体等（相当数いる既卒生の把握も必要です）に対して、日本語を母語としない生徒（外国籍および日本国籍）全員を対象とした実態調査を行って、現状を公表してください。
- (2) 高校の在籍学級での学習が日本語では困難な教科・科目について、取り出し授業の実施を推進し、担当する教員の研修を実施してください。
- (3) 在京外国人生徒等入試で不合格になった生徒たちは、合格可能な都立高校を探して一般入試で多数入学します。日本語指導が必要な生徒を受け入れた全都立高校で、充実した支援ができるよう、日本語の「特別の教育課程」の実施を推進してください。

六、入学者選抜検討委員会に、「特別部会」を常設してください。

日本語を母語としない生徒に公正な進学機会を保障する問題については、専門家の知見・判断が必要です。「特別部会」を恒常的に設け、検討協議された内容については、着実に実行してください。